



北白石中学校

Thanks Mail [ホクトスポーツ]

先日は突然のお願いにもかかわらず、職業体験をさせていただき、ありがとうございました。おかげさまでスポーツ店の仕事を少し知ることができました。

特に印象に残っているのは、バドミントンラケットのガットはりと在庫確認です。

いろいろとご親切にいただき大変ありがとうございました。

札幌市立北白石中学校 2年 D.U



“進むべき道は、自分できちんと選んで”

— そうすれば、絶対に後悔はしない

「コンピュータ関係の仕事に就きたい」「僕はバドミントンの実業団に入りたいです」

落ち着いた口調で将来の夢を語ってくれた2人の少年が訪れたのは、ゴルフ練習場とゴルフスクールを併設している、札幌ゴルフセンターです。

「今度は何をやらたいですか?」
自分たちから仕事を見つけ、窓ガラスの掃除、ゴルフボールのセット、受付など、テキパキと仕事をこなしていく2人の姿に、「真面目で一生命懸。ハキハキとして、お客様への対応もしっかりしているし、とても好感が持てますね」と

スタッフの方も感心しきりです。
そして、しっかり者の2人が将来の夢を語ったときも、大きくうなずいてこう励ましてくださいました。
「中学生は、進路を決めたりこれからの人生に大きく関わる経験や決断をしたりする、本当に大切な時期。だからこそ、自分できちっと考えて、物ごとを選んでいかないとね。色々な人に相談したり助言をもらったりすることも、もちろんとても大切。だけど、最終的に自分の進む道は、自分で選んで決めていってね。そうすれば、たとえ失敗しても後悔はないから。そうやって前向きに生きていけば、苦勞も苦勞とは思わなくなるものですよ」



大岡産業(株) (札幌ゴルフセンター)

札幌徳州会病院

年中無休、最先端の24時間救急医療。地域の基幹病院として信頼も厚い札幌徳州会病院を訪れたのは、男女4名ずつ合計8名の生徒です。

薬局、受付、食堂、検査室の4か所に、それぞれ2名ずつ分かれて専門分野の業務を体験しました。将来医療関係に進みたいと希望する生徒が多いこともあり、緊張しながらも、睡を輝かせてスタッフの皆さんの手際よい仕事ぶりを見つめていました。

「なぜ、この仕事を選んだのですか?」「中学生のときは、やはりかなり勉強されましたか?」なかでも、検査室に配属された2人の少年は、熱心に技師長さんに質問をしていました。「中学のときは、勉強よりも野球ばかりしていたね」と、



にこやかに微笑みながらも、技師長さんは真剣に答えてくれました。「僕が進路を決めたのは、高校生のとき人の役に立つ仕事をしたいと思ったことがきっかけだった。長い一生を輝いたものにするためには、やはり本当にやりたいと思う仕事、自分に向いている仕事を選ぶべき。そのためには、いろいろな経験を積極的に挑戦してね。その中から、自分の天職は必ず見つかるから」そう話す技師長さんをまっすぐに見ながら、2人の



少年はうなずいていました。
「職業体験だけではなく、スタッフの人たちからいろいろな話を聞いたのが本当にためになりました」
人生の先輩との交流は、予想以上に大きなものを、生徒たちの胸に残したようです。

“長い一生を輝かせるために”

— 積極的に挑戦して“天職”を見つけ出して



明るく元気な3人の野球少年が訪れたのは、総合スポーツショップのホクトスポーツです。スポーツマンの店長さんとは、すぐに意気投合。ジョークを交えて楽しそうに話していました。
午前中は、掃除と店内の商品の品出し。午後はバドミントンのラケットにガット

を張る作業を教わりました。熟練した店長さんの手にかかっても、20分はかかるこの作業。多いときは日に20本くらい出ることもあるそうです。ガットが切れないように、細やかな注意を払いながら一本一本、丁寧に通していきます。真剣な眼差しを生徒たちに、店長さんが優しく声をかけました。「うちで扱っている商品は“勝負”で使うものだからね。お客さんが素晴らしいプレーができるように、真心込めて丁寧に張っていくんだよ」

ガット張りが終わると、店内を巡り、商品の値段や在庫状況を確認しました。積極的な少年たちは商品を手に取り、店長さんに熱心に質問します。

ホクトスポーツ

「どんな商品が良く売れますか?」「接客をするときに、一番気をつけていることは何ですか?」「たくさんの商品を全部覚えるのは大変じゃないですか?」

少年たちの質問に丁寧に答えてくれたあと、店長さんは最後にこう言いました。

「ただ、商品売るだけではだめ。すべての商品の在庫状況、値段を覚えるのは当たり前。お客さまが商品を選ぶときに、的確なアドバイスができるように、知識を豊富に増やしていくこと。“私たちはプロだ”という意識を必ず持ちながら仕事をするんだよ。真心は必ず伝わるし、誠実な努力は必ず報われるからね」

“誠実な努力は必ず報われる” — 真心とプロ意識



北都中学校

Thanks Mail [正文舎印刷㈱]
 先日の職業体験では、優しく、丁寧に、分かりやすく教えてくださりありがとうございました。ボランティア活動やパソコンの技術、他にたくさんの事を教えてもらい、とても感動しました。みなさんはとても親切で、色々な機械操作も体験させてもらい、メンバー全員嬉しそうでした。
 また、可愛いカレンダーや作って下さったノートなど、早速使わせてもらっています。
 この職業体験で学ばせていただいた事を、学校・家での生活に活かして頑張っていきたいと思います。
 札幌市立北都中学校 2年 K.M



“夢との出会いはタイミング” — 見つかったときに思い切りエンジンをかければいい

「写真を見るのが大好き」という2人の女子生徒が訪れたのは、卒業アルバムや結婚式、証明写真などさまざまなシーンでの写真撮影を手掛けている札幌映像社。

午前中に証明写真の撮り方を学んだあとは、社長さんと2人のスタッフさんへの質問タイムです。「この仕事のやりがいはいは?」「大変な点は?」次々と質問をしているうち、ふと思いつめた表情になり、少女たちはこんな不安を口にしました。

「今を精いっぱい頑張るって生きていけば、やりたいことがいつかは必ず見つかるもの。だから今見つかっていなくても、絶対に遅くはないし、あせる必要は全然ないからね。そのときになったら、思い切りエンジンをかければいいんだよ」皆さんの温かい言葉に安心したのか、2人の表情がぱっと明るくなり、顔を見合わせました。

「じつは、まだ将来の夢が見つかっていないんです」
 すると、札幌映像社の皆さんは、真剣に考えて次のようなアドバイスをくれました。

午後からは自分たちで写真を撮って、今日一日のレポートペーパーを作る作業に入りました。小柄で華奢な少女たちは大きなカメラを手に、瞳を輝かせてあちこち飛び回りながらシャッターを切っていました。



札幌映像社

さぬき亭つるつる家

「作業中は、絶対に声をかけないでね」うどん作りを体験する2人の男子生徒を気づかずに、店長さんが取材スタッフへ声をかけました。
 柔らかな中にも職人らしい厳しさが表れたキラリとした眼差しで、2人の少年のおぼつかない手つきを、優しくそして真剣に見守っています。「食べ物を作る職場に興味があった」と口をそろえる2人も、真剣そのものです。長い時間をかけ、くり返し丁寧に延ばしたうどんの生地をカットしたあとは、余分な粉をはらって箱に並べます。これで作業が一段落。同時に、緊張もとけてきたのか、生徒たちは粉だらけの両手を見つめて顔をほころばせます。
 少しでも充実した職場体験をしても



りたいと、店長さんは「社会人になるまでの心得」、「接客とマナーについて」など、生徒たちのために細かな資料を用意してくださっていました。「社会人になったら、店ごとや会社ごとに決まりや規則があって、それを守りながら働いていくのは、とても大変なことだと感じました」と感想を述べる生徒たちに、店長さんは、優しくこんな言葉を贈ってくれました。
 「仕事は学生時代の試験と同じ。大



丈夫目標に無理がなければ、どんな仕事でも努力次第で結果は必ずよくなるからね」2人は店長さんが用意してくれた資料を、大切にしっかりと握りしめてうなずいていました。

“仕事は学生時代の試験と同じ” — どんな仕事も努力次第で結果は必ずよくなる



「うわあ〜すごい!」「カッコいい!!」創業75年の老舗印刷会社、正文舎印刷の広い工場内から、男女2人ずつ合計4人の生徒たちの明るく楽しそうな声が聞こえてきました。

この日、オリジナルのノートを作るために、生徒はそれぞれ絵を描いてきました。自分たちの絵が表紙となり、製版、裁断、製本と、次々とノートが仕上がっていく工程は、まるでアトラクションでも見ているかのよう。社員の方のいきいきとした解説もあってか、生徒たちは印刷屋さんの仕事に興味を持ったようです。「職業体験が、こんなに楽しいなんて想像していなかった」と瞳を輝かせていました。

僕はね、簡単に捨てられない、ずっと取って置いてもらえるような印刷物を作っていきたいんです」

熱く夢を語る社長さんに刺激されて、生徒たちも誇らしげに自分たちの夢を宣言しました。「プロダンサーになってブロードウェイの舞台に立つの!」「私はファッションコーディネーター」「僕はIT関係に進みたい」「アニメーターになる!」世代を超えて夢を語り合った貴重な体験に、晴れやかな表情で生徒たちは家路につきました。

「大人である以上は、子どもたちに夢を与えていくことは義務だと思っているんです」と語る社長さんは、そんな生徒たちの様子を嬉しそうに眺めています。「印刷は文化を継承する大切な手段。



“世代を超えて語り合う夢” — 熱血社長に憧れの眼差し



東白石中学校

Thanks Mail [理容室 Haru]

この度の職場体験学習では、皆様にあたたかく迎えていただき本当にありがとうございました。

その上、普段はなかなかできない貴重な体験をさせていただき、とても勉強になりました。特に接客や刈布がけなどのヘルプを体験したことが心に残りました。そして、いろいろと学ぶことができました。ほんとうによい思い出になりました。

札幌市立東中学校 2年 1・5



“不安は常につきまとう”

— でも“好き”という気持ちには、どんなマイナスもプラスに変える力がある

「すごく楽しいです！職業体験に来てよかった」

輝くような笑顔で答えてくれたのは、理容室 Haruに訪れた2人の男子生徒。

タオルをたたんだり、カルテを整理したほか、お客さまにかけけるケープを手渡したり、カットされ床に落ちた髪の毛を掃除したりと、一日中、大活躍の2人です。

午後には、お互いの髪の毛をシャンプーとブローする体験をしました。将来はパティシエを目指しているという生徒は手先がとても器用で、店長さんも感心

しきりです。将来は役者になるのが夢という、もう一人の生徒も明るく快活な笑顔で元氣よくお客さまを出迎えていました。

大きな夢を持つ2人の少年に、店長さんはこんなエールを贈ってくれました。「好きなことを仕事にできても、不安は常につきまとう。楽しいことばかりではなく、これからつらいこともいっぱいあると思う。でも“好き”という気持ちには、どんなマイナスもプラスに変える力があるんだよ。失敗の積み重ねで、生きるということを学んでいけるからね。だから、失敗を恐れなくて、なにごとにもチャレンジしていってね」2人の生徒は笑顔で大きくうなずいていました。



理容室 Haru

ネットトヨタ札幌白石店

野球にサッカー、卓球にソフトテニスとさまざまなスポーツ系の部活に所属する活発な8人の男子生徒が訪れたのは、国道12号線沿いに位置するショールーム、ネットトヨタ札幌白石店。

午前中は、車の仕組みやハイブリッドカーの説明を受けたあと、2グループに分かれて、交互にタイヤ交換と洗車を体験しました。きらびやかなショールームの地下にある大きな整備工場に足を踏み入れた途端、「車が大好き！」という8人は、いきいきとした表情で工場内のあちこちに目を走らせます。タイヤ交換の場面では、なかなかはまらないホイールキャップや重いタイヤに悪戦苦闘。でも、スポーツ少年らしい抜群のチームワークを発揮して、困っている友人をみ



んなでアシスト。なかには「今度、お父さんの車のタイヤ交換、僕がやってあげようかな」と笑顔で言う生徒も。そういうさわやかな光景を、彼らと同じ中学2年生の娘さんをもつという店長さんが優しく見守っています。

「仕事も人間も、みんなが平均点である必要はない。仕事は真面目に取り組めば、必ず誰でも覚えるもの。でも仕事をするうえでの熱い気持ちや信念は、本人にしか作れませんからね。その



ためには、決して安易に他の人と同じ色に染まろうとせず、自分自身をしっかり持って仕事ができる、そんな社会人に成長して欲しいですね」

“平均点はいらない”

— 決して他の人と同じ色に染まらないで



「なんでも思いついたこと、感じたことを自由に書いていいんだよ」そう職員さんに声をかけられたのは、「児童労働」と大きく中央に書かれた模造紙を囲んで真剣に考え込んでいる男子生徒4人です。インドの児童労働の実態を追ったドキュメンタリービデオを見て、衝撃だったようです。

この日彼らが訪れたのは、開発途上国への援助事業の北海道の拠点として1996年4月にオープンしたJICA札幌（独立行政法人国際協力機構 札幌国際センター）です。午前中は、施設の見学とオリエンテーション。午後は、前述のビデオ鑑賞とブレインストーミングを行いました。

自分たちよりもはるかに幼い子どもたちがあまりに過酷な労働をしている現実を知り、生徒たちはショックを受けたようで、なかなかベンが進みません。

「速い国で児童労働が当たり前になっているなんて知らなかった。衝撃を受けた」

「日本じゃありえないよね。子どもを

学校にも行かせず、働かせるなんて」

「まだやっと8つくらいの子が30キロ以上の荷物を運ばれている映像にびびりました。なんかうまくいえないけど“理不尽”という言葉が強く浮かんだ」

そんな彼らに職員さんは優しく語りかけてくれました。

「とにかくアンテナを鋭くして、敏感になってください。それは広い世界に向けても、もちろん家族や友人など身近なことでも…。そうして誰に対しても思いやりを持てるようになって、そのうえで職業選択をしてください。職業は、ただの生きる手段ではなく“自分がどう生きるか？”という大きなテーマに直接かかわるものなんですよ」

“世界へも、身近なことへも”

— アンテナは常に鋭く